2025 年度（第 12 期）事業報告書（2024 年 10 月 1 日～2025 年 9 月 30 日）

A. 概要

B. 人材育成（人づくり）事業
1. 勉強会「てらこや」（別添１）
2. 講師・ファシリテーター派遣
3. ニュースレター「かわらばん」
4. Helping Health Workers Learn 翻訳プロジェクト（別添２）

C. 研究（知づくり）事業
１. 国際協力事業に関する知見の公表
２. 研究者との連携

D. 実践（場づくり）事業
1. 国際協力
2. 地域保健医療派遣
3. 他 NGO などとの連携

E. 事務局業務
1. 事務所
2. 運営
3. 広報
4. 会員

F. 会計（別添３：2025 年度(第 12 期)　収支報告書）

A. 概要

東ティモール事業について、第 2 フェーズを実施すべく 2025 年 10 月に JICA 草の根技術協力事業（パートナー型）を応募すべく準備を進めた。名古屋市立大学看護学研究科とパーツ大学の国際共同研究の研究協力受託機関として活動を継続した。また、国際リハビリテーション研究会との共同研究で東海地域 NGO 活動助成金を受託し、セミナーを開催した。Helping Health Workers Learn（HHWL）翻訳プロジェクトについては、アジア保健研修所（AHI）と共同で日本語版の広報と販売を行った。

B. 人材育成（人づくり）事業

1. 勉強会「てらこや」開催

例年どおり年 6 回開催した。開催方法は各回担当講師と相談の上、オンラインまたはハイブリッド開催とした。参加人数は平均 17 人であった。終了後は当法人ウェブサイトとニュースレターで内容を報告した。（別添 1）

2. 講師・ファシリテーター派遣

以下のとおり派遣した。

・日本福祉大学国際学部（国際開発と障害学 15 コマ、国際保健 15 コマ）講師（2024 年 9 月～11 月、2025 年 4 月～9 月、石本）

・愛知県作業療法士会現職者研修（日本と世界の作業療法の動向 1 コマ）講師（2024 年 10 月 20 日、石本）

・新潟大学医学部（医療ボランティア論 1 コマ）講師（2024 年 11 月 6 日、石本）

・日本福祉大学国際学部（現代福祉 1 コマ）講師（2025 年 6 月 13 日、石本）

・東邦大学健康科学部（国際保健論 7 コマ）講師（2025 年 9 月～10 月、石本）

3. ニュースレター「かわらばん」発行

1 月（14 号）と 7 月（15 号）に発行した。発行部数は各号 100 部、うち会員および関係者（過去の勉強会講師、連携団体、業務依頼先など）約 70 件に発送した。在外の関係者には PDF でメール送信した。その他、紙媒体をイベントなどで広報に活用した。

4. Helping Health Workers Learn 翻訳プロジェクト（以下、ほんプロ）

アジア保健研修所（以下、AHI）と共同で監訳した「学ぶことは変わること　自分と地域の力を引き出すアイディアブック」の広報と書籍販売を行った。販売促進のため国際開発学会春季大会（2025 年 6 月）でのブックトークに登壇したほか、国際保健関係団体や個人に広報した。（別添２）

５．その他

名古屋市立大学看護学部のゼミ実習を勉強会に受け入れた。（のべ 11 名）

C. 研究（知づくり）事業

1. 国際協力事業に関する知見の公表

名古屋市立大学とパーツ大学による国際共同研究「小児低栄養の社会的要因の解明：ポジティブな逸脱者の探索と地域データベースの構築」に研究協力機関として参加し、論文化に向けての準備作業（文献収集、資料作成）を行った。

2. 研究者との連携

国際リハビリテーション研究会と連携し、引き続き「在日外国人リハ事例集積プロジェクト」と「在日外国人に対する在宅リハ研究プロジェクト」に参加した。「在日外国人への訪問ケアの導入を円滑にするインテイクシートの開発」のテーマで 2025 年 3 月に東海地域 NGO 活動助成金を得て、開発中のインテイクシートを紹介するセミナーを開催した。(2025 年 8 月 3 日名古屋市、同年 10 月 5 日東京都)。参加者は名古屋会場 22 名、東京会場 12 名であった。

3. 研究課の活動

今期は研究員登録の希望者はいなかった。

D. 実践（場づくり）事業

1. 国際協力

・2025 年度の JICA 草の根技術協力事業（パートナー型 3000 万円枠）に東ティモールプロジェクト（フェーズ 2）を提案すべく準備を進めた。(2025 年 10 月 20 日応募済)

・名古屋市立大学とパーツ大学による国際共同研究「小児低栄養の社会的要因の解明：ポジティブな逸脱者の探索と地域データベースの構築」の業務調整と研究補助（進捗管理・調整など）を行った。

2. 地域保健医療支援

昨年度に引き続き、愛知国際病院に医師を派遣した（月 2 回)。

3. 他機関との連携

・AHI と協力し、書籍「学ぶことは変わること」の販売と広報活動等を共同で実施した。2025 年 6 月の国際開発学会春季大会（北海道大学）では、ブックトークセッションに AHI 清水氏と石本が登壇し書籍紹介を行ったほか、会場内に販売ブースを設けた。

・名古屋市立大学看護学部の統合実習をてらこやで受け入れた。

・People’s Health Movement (PHM)、SDGs Japan の ML への参加を継続した。

・JICA 社会保障・障害と開発分野プラットフォームの団体会員を継続した。

・（公財）愛知県国際交流協会作成の「2025 年度版　国際交流ハンドブック」に、民間国際交流団体として掲載された。(https://www2.aia.pref.aichi.jp/kikaku/j/handbook/index.html)

E. 事務局業務

1. 事務所

法人登録住所は現状のまま名古屋市瑞穂区田辺通 1－22－2 とし、通常業務は別事務所で行った。別事務所の賃借料や光熱費は無料で、通信費のみ BiPH が負担した。

2. 運営

理事会：計 3 回開催した。2024 年 10 月に（第 20 回）にオンラインで、2025 年 1 月（第 21 回）と同年 6 月（第 22 回）にメールで開催した。

事務局：事務局業務は、前年度に引き続き、樋口倫代と石本馨 2 名で運営した。樋口は水曜日午前（事務局）、土曜日（愛知国際病院への派遣）の勤務であった。石本は週 3 日は名古屋市立大学で受託業務を行い、週 1 日は BiPH 事務局にて業務全般を担当した。

外部委託：ウェブサイト維持を引き続きシステム開発会社プロテックに依頼した。

3. 広報

・ニュースレター発行

「BiPH かわらばん」を年 2 回発行した。会員と関係者に紙媒体を郵送したほか、在外の関係者向けに PDF でメール送信した。また、過去のニュースレターを法人ウェブサイトで閲覧できるようにした。

・ウェブサイト運営

法人ウェブサイトと FB ページを維持した。メール不具合によりウェブサイト維持委託先にウィルス対策を発注した。

・メールマガジン配信

勉強会広報を中心に不定期で配信した。

4. 会員

2025 年 9 月末で個人正会員 35 人（うち終身会員 4 人）、団体正会員 2 団体、個人賛助会員 2 人となった。新規入会・会員資格喪失者ともに 0 名であった。また、6 名から合計 515,500 円の寄付をいただいた。会員にはニュースレターを活用して活動報告をするとともに、引き続きサポートと参加をお願いした。

F. 会計（別添３）

今期の収入総額 2,361,826 円（前年比 55.7%）、支出総額 2,940,192 円（前年比 135.6%）だった。今期収支差額は-578,366 円であった。

今年度の大幅な支出増の原因は、TL 部門で 8 月に JICA 草の根事業応募に向けた案件形成前調査にかかる費用が発生したためである。また、HHWL（ほんプロ）部門では売上額が前年比 24%と減少した。

今期末の純資産合計は 10,234,940 円となった。

別添 1：勉強会

回	日時 （方法）	内容	担当	参加人数
1	2024/11/29 （オンライン）	東ティモールにおける母子栄養－BiPH が支援する研究プロジェクトの進捗報告－	高井久実子（日本福祉大学）	計 13 会員 12 非会員 1
2	2025/1/25 （ハイブリッド）	リハビリテーションに関する国際動向とデータサイエンス	山口佳小里（国立保健医療科学院　医療・福祉サービス研究部）	計 16 会員 8 非会員 8
3	2025/3/28 （オンライン）	リハビリテーション分野から考える日本で暮らす外国ルーツの人たちへの支援	河野眞（国際医療福祉大学小田原保健医療学部、国際リハビリテーション研究会）	計 18 会員 6 非会員 12
4	2025/5/23 （オンライン）	障害のありか・アプローチのコツ　～当事者セラピストと振り返る支援の現場～	山田隆司（NPO 法人にこまる）	計 16 会員 7 非会員 6 学生 3
5	2025/7/25 （ハイブリッド）	医療現場におけるアドホック通訳	橋本智恵（名古屋市立大学大学院看護学研究科博士後期課程 1 年）	計 15 会員 4 非会員 7 学生 4
6	2025/8/29 （ハイブリッド）	東ティモールにおける NCDs の現状と課題　―感染症から慢性疾患へ。転換期にある国のいまを見つめる―	吉森悠（帝京大学大学院公衆衛生学研究科専門職学位課程 2 年）	計 21 会員 9 非会員 8 学生 4

別添 2：ほんプロ詳細

１．販売数
①PDF 版販売数＝3（今期のみ）　累積販売数＝33
②製本版販売数（AHI および BiPH 直販：今期のみ）＝4（AHI1、BiPH3）　累積販売数＝49
③製本版販売数（Amazon 流通分：2024 年 5 月～2025 年 4 月）＝32　　累積販売数＝151

２．広報先（BiPH 実施関係のみ）
①JICA 関係
特筆すべきことなし
②学会・研究会関係
・日本国際保健医療学会（2024 年 11 月の学術大会抄録集で広告掲載）
・国際開発学会（2025 年 6 月の春季大会でブックトークセッションで AHI 清水氏と登壇）
③NPO/NGO 関係
・（公社）日本 WHO 協会機関誌「目で見る WHO」（2025 年夏号に掲載）
④その他
・BiPH 会員、勉強会参加者、つながりのある個人など